

ビールの街、ポートランド。
はじまりは
ビールへのこだわり。

昨今、ブルワリーなくしてポートランドは語れないだろう。オレゴン州の醸造所を総括する団体『オレゴン・クラフト・ビア』によると、2014年時点で州内にあるビール会社は173社。ポートランド市内

には56もの醸造所があるという。地産地消とアルチザンを敬い、美食とことん楽しむポートランドならではの数字だ。街角にはブルーパブ（ブルワリーナパブリックハウス）が溢れ、そこに暮らす人も、訪れる人も、クラフトビールを飲みながら、共に楽しいひとときを過ごす。ポートランドでは誰もが集えるパブが日常の一部となった。

けれども、今のポートランドがいきなり「マイクロ・ブルー・キャピタル」になり得たわけではない。ものごとには常に先駆者がいる。「マクメナミンズ」の名でパブや劇場、ホテルなどをチェーン展開する地ビール会社のマクメナミン兄弟がそうだ。「うまいビールが飲める、おもしろ

いパブを造っていききたい」そこには生まれ育ったコミュニティへの愛着と、ビールをこよなく愛する気持ちに支えられ、兄弟が突き進んだクラフトビールによるコミュニティづくりへの挑戦があった。ポートランドが今のポートランドになる以前からすでに始まっていた、彼らの奮闘記をたどってみよう。



ダウンタウンのクリスタル・ホテルは国の歴史登録財。1911年に建設され、ゲイバーやクラブを経て2011年にホテルとして蘇った。



『マクメナミンズ』の手法がすご

ポートランドでの暮らしの中には常にビールがある。この街の人、文化、歴史、経済と深く結びついている象徴的な存在。



「一貫してこだわったのは『うまいビールが飲める、おもしろい場所』」

ブライアン&マイク・マクメナミン兄弟

【マクメナミンズの創始者・慈善事業家】

ノースイースト地区出身。オレゴン、ワシントン州で目覚ましい展開を続けるチェーン事業『マクメナミンズ』の創始者・慈善事業家。クラフトビール、手作りコーヒーの事業展開とともに、廃屋を次々とヒップなレストランやカフェに造り替えるビジネスで知られる。コミュニティの歴史保全にも力を入れている。



マクメナミンズ

www.mcmenamins.com



特集
ポートランド&ニューヨークの
まちづくり
YOU ARE YOUR CITY!

photo by McMenamins

古い建物は壊される。そんな世の常を逆手にとって、古い建物の物語を受け継いだまま、地域に根づいた人々の憩いに場にしてしまうナイスなビジネスモデルがある。ビールをこよなく愛し、うまい食事を囲みながら、人々と触れ合うのが大好きな兄弟が始めた『マクメナミンズ』。一度は忘れ去られた学校や教会が、みるみるうちに真のパブリックハウスへと蘇る。

photographs by Leah Nash & McMenamins text by Kayo Ogawa



Keyword **R**estore

【リストア】

歴史的建物を再生する。



建物を彩るアートは、その建物の歴史文獻に基づいて地元アーティストによって生み出される。その名も“建物的シュルレアリスム”。

い。忘れ去られた建物がソーシャルスポットに。

重厚感があつてカッコいい劇場だよ!



「古い建物を使おうっていうのは、最初からいろいろと計画していたわけではないんだ。自然にそうになっていったんだ」



かつてジェネレーションXやヒッピーたちが多く暮らしたホーソン地区にあるバグダッド・シアター&パブ。1927年に誕生、1987年にマクメナミンズによって再生。1989年には国の歴史登録財へ。

全世代を惹きつける
真のバブリックハウス造り。

兄弟が初めてパブをオープンしたのは1974年。二人ともまだ20代前半で、活気と夢に満ちあふれる青年だった。当時のオレゴン州では、すでに地ワインとともに食を楽しむという機運が盛り上がりつつあり、州内初のクラフト・ブルワリー「カートライト」が1980年に誕生した後は、その傾向はさらに強くなった。しかしその一方で、醸造所から直接アルコールを販売すること（今日でいうブルーパブ形式）は違法という障壁もあった。

ビールは鮮度が命。ブルワリーから新鮮なビールを直接消費者に提供できるブルーパブを、いつか自分たちの街に構えたいと夢見ていた兄弟は、州法の改正を求めて州議会に対して有志とともにロビー活動を起こした。時は1983年。州はこれを認め、オレゴンには禁酒法時代以来、初めてブルーパブ文化が開花することになった。

規制がなくなったことで、兄弟は手始めにサウスウエスト地区の古い建物を購入した。単純に新しい建物よりも、古い建物のほうが安かったからだ。

1985年、オレゴン初のブルーパブとなる「ヒルズデール・ブルワ

辿り着いた。以後は古い建物を探してそれを買取り、建物の持ち味を損なうことなく、レストランやホテルなど、現代のニーズに見合う形で出店するスタイルを築きあげた。

「おじいちゃんが子どものころ、この街にはこんな建物があったんだ」祖父をして孫たちにそう語れるような大衆の集いの場の再現。都市開発の波によって、コミュニティの歴史や持ち味は一新されることが多い今日、そんな彼らの確固たる手法に注目が集まるのもうなずける。

人が足しげく通うようなパブだった。「パブに欠かせないのは人。クールなインテリアがお客さんを長く惹きつけるとは思わない。店の雰囲気をつくるのはそこにやってくるお客さん自身なんだ」

一時はやりの造りではダメだ。地元の人々が何度も通いたくなるようなコンセプトが必要だ。そうして兄弟は、地域で受け継がれる足跡をパブという空間で生かし続ける手法に

リー&パブリックハウス』がオープンした。薄暗くて近寄りたいたい従来のパブのイメージを払拭し、明るくてやや奇抜なインテリアは、またたくまに人気を博した。店の繁盛を受け、兄弟は次のプロジェクトに思いを巡らせた。どうせなら子どもからおじいちゃんまで、全世代が楽しめる空間をつくりたい。娯楽だって必要だ。兄弟が目指したのはビールのうまさだけでなく、

ビフォー & アフター



古くなった建物もこのとおり。建物を持つ特徴的な装飾などを極力変えることなくメイクオーバー。その土地のランドマークを守るといことは、それをとりまく地域やコミュニティの持ち味や歴史をそのまま継続していくということ。



ホテルの個室には、「歴史的シュレアリズム」に基づいた様々なアートが描かれている。



郊外では広大な土地を活かしてゴルフ場も。コースをまわりながら会話も深まる。



きれいに蘇った劇場は、おじいちゃんやおばあちゃんも楽しめるパブリック・スペース。



ホテルに改装された元小学校の中庭には、リラクゼーション用のプールが出現。

古い建物に新たな価値を吹き込む、マクメナミンズのアイデアたち。



土地にゆとりがある郊外のマクメナミンズでは、敷地内に野菜畑やブドウ園まで併設されている。



飲みニケーションに欠かせないお酒も完備。もちろん、マクメナミンズが造るお酒です。



マクメナミンズのオリジナル商品が買えるギフトショップは子どもたちに人気。



食事も人が集う大切な要素。ボリュームたっぷりのハンバーガーは人気メニューの定番。

限定期間限定

オレゴンからはじまる、
温故知新と文化継承の波。

ダウンタウン中心地のクリスタル・ホテル&ボールルームはアメリカの文化遺産保護制度の一つである国家歴史登録財でもある建物。かつてポートランドのまちづくりの奔走したアーティストや著名人たちの定宿だったこのホテルでは、今なお残る古い写真やデコールから当時の様子を窺うことができる。

そして市内から車で約20分、郊外に位置するエッジフィールドは気軽にアクセスできるリゾートだ。都市の繁栄とは逆に、貧困にあえぐ郊外の町に生まれたリゾートホテルは、地元住民への雇用の機会をもたらし、

ノースイースト地区にあるケネディ・スクール。1915年に建てられ、1975年の閉校まで多くの小学生を送り出してきた。水道も電気もなかった時代の学校生活、戦争の時代を刻み込んだ建物は、1997年にはその構造を活かした家族向けホテルとなった。

これまでにオレゴンで45、ワシントンで8ものプロジェクトを手がけてきたマクメナミンズだが、この秋にはシアトル市と提携し、古い学校をリゾート施設へ転換する工事が始まる。クラウドファンディングです

パーティも
とっても素敵
になります。



「建物に刻まれた歴史を敬うことで、
その場所を訪れる人々に
より深みのある体験をしてもらえるんだ」



多目的ホールに蘇った
クリスタル・ボールルーム。

①1914年、ボールルーム『ザ・クリスタル』として開館。以後、ポートランドの主要音楽ベニューとして知られてきた。現在は結婚式やビジネス会議など、多目的ホールに。②夜のダウンタウンに浮かび上がるレトロなネオンサイン。③クラシックな雰囲気を残す空間でライブコンサートも。④玄関ホールからも、当時の華やかさが伝わってくる。



でに800万ドルの支援集めにも成功した。一度は忘れ去られた空間が、新たな集いの場として再生する。そんな彼らの快進撃はこれからも続いていく。



郊外の貧しい農場が
広大なリゾート複合施設に。

①広大な土地を活かし、敷地内には自社ワイナリーとぶどう畑が。テイスティングを楽しむ訪問客たち。②農家のごみ焼却炉は、10席のみのごちまりとしたパブに変身した。③収穫期を迎えた梨園で収穫に励むスタッフたち。彼らもエッジフィールドの歴史に寄り添って生きている。④ポートランド市内の住民たちも気軽に楽しめる近郊のリゾート地。



コミュニティの小学校が
ファミリー向けホテルに。

①開校当時の面影をそのまま残した現ケネディスクール（ホテル）の正面入口。②開放感あふれるかつてのカフェテリアは美味しい地ビールとボリュームたっぷりの食事が楽しめるレストランに。③ビール醸造所も併設。④ボイラールームは大人向けのバーに。配管をつけて作ったオブジェがひととき目を引く。

